

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成22年12月16日(2010.12.16)

【公表番号】特表2010-508025(P2010-508025A)

【公表日】平成22年3月18日(2010.3.18)

【年通号数】公開・登録公報2010-011

【出願番号】特願2009-534839(P2009-534839)

【国際特許分類】

C 12 N 15/09 (2006.01)

C 12 Q 1/68 (2006.01)

G 01 N 37/00 (2006.01)

【F I】

C 12 N 15/00 Z N A A

C 12 N 15/00 F

C 12 Q 1/68 A

G 01 N 37/00 1 0 2

【手続補正書】

【提出日】平成22年10月25日(2010.10.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

腫瘍がP I 3 K経路におけるタンパク質を標的とする治療薬に応答するかどうかを予測する方法であって、該腫瘍がP I K 3 C Aポリペプチドの活性化を生じさせるP I K 3 R 1ポリヌクレオチド又はP I K 3 R 1ポリペプチドにおける変異を含むかどうかを決定することを含み、変異の存在が該腫瘍が治療剤に応答するであろうことを示す、方法。

【請求項2】

腫瘍が固形腫瘍である、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

腫瘍が結腸腫瘍である、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

変異がP I K 3 R 1ポリヌクレオチドにおけるヌクレオチド変異である、請求項1に記載の方法。

【請求項5】

ヌクレオチド変異がP I K 3 R 1ポリヌクレオチドのコード化配列内に存在する、請求項4に記載の方法。

【請求項6】

ヌクレオチド変異が1732Aにある、請求項5に記載の方法。

【請求項7】

変異がP I K 3 R 1ポリペプチドにおけるアミノ酸変異である、請求項1に記載の方法。

。

【請求項8】

アミノ酸変異がP I K 3 R 1ポリペプチドのSH2ドメイン内に存在する、請求項7に記載の方法。

【請求項9】

アミノ酸変異が 5 6 4 N にある、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

アミノ酸変異が 5 6 4 N > D である、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

治療薬が P I K 3 C A ポリペプチドを標的とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 12】

P I 3 K シグナリングのアンタゴニストを含む製剤の有効量を含む、P I K 3 R 1 ポリペプチドにおけるアミノ酸変異を含む腫瘍を治療するための医薬であって、前記アミノ酸変異は P I K 3 C A ポリペプチドの活性化を生じさせる、医薬。

【請求項 13】

腫瘍が 固形腫瘍である、請求項 12 に記載の医薬。

【請求項 14】

腫瘍が 結腸腫瘍である、請求項 12 に記載の医薬。

【請求項 15】

アミノ酸変異が P I K 3 R 1 ポリヌクレオチドのコード化配列における変異により生じている、請求項 12 に記載の医薬。

【請求項 16】

アミノ酸変異が P I K 3 R 1 ポリペプチドの S H 2 ドメイン内に存在する、請求項 15 に記載の医薬。

【請求項 17】

アミノ酸変異が 5 6 4 N にある、請求項 16 に記載の医薬。

【請求項 18】

アミノ酸変異が 5 6 4 N > D である、請求項 17 に記載の医薬。

【請求項 19】

アンタゴニストが P I K 3 C A ポリペプチドのアンタゴニストである、請求項 12 に記載の医薬。